

# チームの支えになる

秋季ラクロスリーグ戦女子4部Bブロック



チームに復帰し、選手たちに活力を与えている4年の一人、17 福島（古田早季撮影）

「経験を生かしてチーム全体を支えていきたい。そう語るのには昨年まで女子ラクロス部で主将を務めていた福島詩乃（社4）。一旦は昨秋リーグで第一線を退いたものの、大沢久美子（商4）、山口沙希（国4）と共にチームに復帰した。今季リーグは2戦中2勝というスタートを切っている。現在主将を務める河津八絵（法3）は4年生の復帰について「チームにとって大きな存在。いろいろなアドバイスをしてくれて本当に助かる」とその重要さを強調した。それは技術的な面でももちろんそうだが、精神的な面での『安心感』によるところが大きい。

とができるのだ。次には3部から降格してきた神田外語大との1戦が待ち受けているが、「10点差で勝つ」と強気な発言も。「チームが勝つために何が出来るのか。それを考えて最善のプレーをしたい」。入学当初からの目標だった3部昇格の為、彼女たちは全力をこの秋に賭ける。

次戦は9月18日13時40分、対神田外語大が駒沢第二球技場で行われる。

## 戦績

- 第1戦 駒大 12 - 4 帝京大
- 第2戦 駒大 10 - 3 駒沢女大

# この勢いは、止まらない

秋季ラクロスリーグ戦男子3部Cブロック



目標である3部得点王になるべく、まい進し続ける 3 紫垣（古田早季撮影）

3部Cブロックで今年のリーグ戦を戦う男子ラクロス部。昨年は2部3部の入替予備戦出場まで行くものの、入替戦出場はならず。しかし今季は違う。初戦の桜美林大戦こそ10-10の引き分けに終わったが、その後2戦は27-2、18-6とどちらも大差で勝利している。試合を重ねるごとに強さを増していく彼ら。第2戦の聖学院大戦では「勝つたのはよかつたが、自分達のやり方で点数を取れたのは半分くらい」と勝利におごることはなく、自分達の課題を全員が意識していた。そして第3戦、明海大戦での勝利。聖学院大戦よりも明らかにパスの精度などがあがっていた。それは全員の高い意識の賜物だろう。そんな勝利の立役者のひとりには3 紫垣源次郎（法3）という男がいる。3戦連続でチーム最多得点。現在の総得点数は20点とチーム内随一の得点力を誇る男だ。桜美林大戦ではチーム総得点の半分、

## 戦績

- 第1戦 駒大 10 - 10 桜美林大
- 第2戦 駒大 27 - 2 聖学院大
- 第3戦 駒大 18 - 6 明海大

次戦は10月7日17時30分、対慶応義塾高校が駒沢補助競技場で行われる。聖学院大・明海大戦では3分の1が彼による得点である。この大量得点を生み出すパワフルなプレーはまさに圧巻の一言。しかし彼は6得点も挙げた明海大戦で「決められた場面で外すことが何度かあり納得していない」と、自分のシュート力に満足していないようだ。「3部得点王を狙いたい」。まだまだ上を目指す紫垣の成長には期待が出来る。次戦の慶応義塾高校戦は入替戦出場に関わる大きな一戦。勝利の鍵は彼が握っているともいえよう。

## 新人戦サマーステージ

新人戦サマーステージとは、3大新人戦（サマーステージ、ウインターステージ、あすなるカップ）のうちの1つである。この大会が1年生たちの初めての公式試合となり、自分たちの練習の成果が試されるときである。

2日間に渡って開催されたこの大会。駒

大の1日目は女子の出場となった。やはり初の公式戦だけありみんな動きが固い。予選リーグ1試合目は緊張からうまく動けず敗戦。しかし、この1戦で試合に慣れた彼女たちは2試合目で同点、そしてフリーシュート（PKのようなもの）に持ち込む。プレッシャーに負けず24勝倉が決め、勝利を呼び込んだが勝ち点の差で予選リーグ敗退となった。

2日目に出場となった男子は全部で4戦を戦い抜いた。「練習量が違う。自分たちは甘かった」と振り返るように予選リーグ全敗となったが、2部校で実力も上の上智大に3-4と善戦するなど期待の面も見受けられた。そして男女共に「冬の新人戦は勝つ」と強い決意も見せてくれた。これからの成長をみなさんと一緒に見届けてほしい。